

証券コード：4406

第142期 中間報告書

平成25年4月1日～平成25年9月30日



人と化学に向かい合う

私たち新日本理化グループは、
もの創りを通して広く社会の発展に貢献します。





重点戦略分野への更なる新製品の投入、 世界市場への販売拡大により 安定した利益確保に努めてまいります。



代表取締役社長 藤本万太郎

株主の皆様におかれましては、平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

ここに当社第142期の第2四半期（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）における概要をご報告申し上げます。

事業の概況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策や日本銀行の金融緩和などを契機とした円安・株高で着実に景況感の改善が見られるものの、実体経済への影響は限定的なものに留まっており、欧州景気の停滞や新興国経済の減速など、依然として景気の先行きは不透明な状況が続きました。

化学業界におきましても、円安による原料価格の高止まりや新興国の景気低迷に加えて、国内では安価な輸入品との競合激化など、厳しい事業環境のもとに推移いたしました。

このような環境のなか、当社グループにおきましては、営業部門に新たに設置した「技術サービス製品開発担当」スタッフによる積極的な顧客ニーズの探索強化に努めたほか、原油・ナフサ価格の高騰に伴う製品価格の是正にも精力的に取り組んでまいりました。また、海外事業の一環として、米国市場での販路拡大を目的に、本年5月に「RiKAmerica Inc.」を子会社化し、グローバルでの販売・供給体制の強化を図ってまいりました。

しかしながら、長引く輸入品の流入や原料価格の高止

まりに加えて、海外市況低迷などの影響を大きく受けたことから、当社グループの売上高は148億5千8百万円（前年同四半期比5.2%増）となり、損益面では、営業利益9千万円（前年同四半期は6千9百万円の営業損失）、経常利益2億5千1百万円（前年同四半期は4百万円の経常利益）、四半期純利益1億7千9百万円（前年同四半期は1億1千万円の四半期純損失）となりました。

このような状況でございますので、中間配当につきましては見送りとさせていただきたく、ご了承賜りますようお願い申し上げます。

今後の見通し

今後のわが国経済につきましては、五輪誘致効果や消費税率引き上げ前の個人消費、住宅投資の駆け込み需要が予測されるものの、原材料価格の高値推移や新興国の景気減速による輸出の伸び悩みなど、景気の先行きは依然予断を許さない状況が続いております。

このような状況のなか、当社グループといたしましては、新規開発品の早期事業化の推進に加えて、研究開発活動では「ライフサイエンス」「環境・エネルギー」「情報・通信」の重点戦略分野へ注力し、更なる新製品の投入を実施するほか、海外事業では、「RiKAmerica Inc.」を拠点として米国を足掛かりに世界市場を視野に販売網を拡大していくとともに、国内既存事業の収益基盤を強化し、安定した利益確保に努めてまいります。

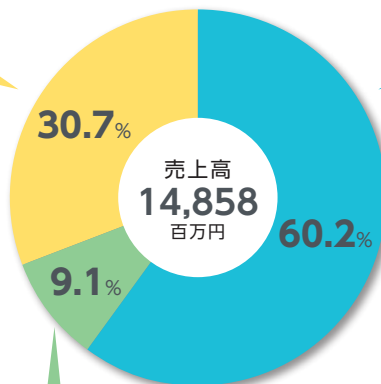
油脂製品セグメント

売上高 **4,557** 百万円

油脂部門では、医薬分野向けグリセリンの販売は好調に推移したほか、ステアリン酸が金属石鹸・安定剤向け販売で期後半から堅調な動きが見られましたが、一部の界面活性剤向けにおいて輸入品への切り替えがありましたため、油脂製品部門としては、販売数量、売上高ともに減少いたしました。

アルコール製品部門では、化粧品・トイレタリー分野向けは堅調に推移し、販売数量は増加したものの、繊維油剤向けの不飽和アルコールの販売が総じて低調に推移したため、売上高は減少いたしました。

以上の結果、油脂製品セグメントの当第2四半期連結累計期間の売上高は45億5千7百万円（前年同四半期比2.0%減）、セグメント損失は1億1百万円（前年同四半期は1億3千6百万円のセグメント損失）となりました。



その他セグメント

売上高 **1,348** 百万円

その他セグメントにおきましては、車両洗剤・業務用洗剤は好調に推移したものの、防錆剤・水溶性切削油が前年を下回り低調な結果となりました。一方、商社部門では住宅関連業界向けおよび自動車関連向け販売が概ね順調に推移いたしました。

以上の結果、その他セグメントの当第2四半期連結累計期間の売上高は13億4千8百万円（前年同四半期比9.9%増）、セグメント利益は1千8百万円（前年同四半期比127.7%増）となりました。



石油化学製品セグメント

売上高 **8,953** 百万円

化成品部門では、可塑剤は住宅の着工件数は増加しているものの、主用途の壁紙・床材など内装材関連の需要回復までには至っておらず、また、相次ぐ輸入品の流入により厳しい販売活動を強いられました。

機能製品部門の国内販売では自動車関連向けは順調に推移したものの、電機関連業界では需要低迷が継続し、ほぼ前年並みとなりました。一方、輸出販売では、欧州および中国で需要が低迷したほか、市場価格の低下により前年を大きく下回る結果となりました。

樹脂添加剤は、国内販売では前年並みに留まりましたが、昨年後半より海外市場で拡販に成功したことにより販売数量、売上高ともに大幅に増加いたしました。

以上の結果、石油化学製品セグメントの当第2四半期連結累計期間の売上高は89億5千3百万円（前年同四半期比8.5%増）、セグメント利益は1億7千5百万円（前年同四半期比210.8%増）となりました。





連結財務諸表／財務ハイライト（連結）

● 四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

科 目	当第2四半期末 平成25年9月30日現在	前期末 平成25年3月31日現在
資産の部		
流動資産	17,863	17,896
固定資産	17,382	16,331
有形固定資産	9,540	9,349
無形固定資産	71	76
投資その他の資産	7,770	6,904
1 資産合計	35,245	34,227
負債の部		
流動負債	11,766	13,208
固定負債	10,353	8,639
2 負債合計	22,119	21,848
純資産の部		
株主資本	11,757	11,578
資本金	5,660	5,660
資本剰余金	4,246	4,246
利益剰余金	2,020	1,841
自己株式	△ 170	△ 170
その他の包括利益累計額	661	105
その他有価証券評価差額金	1,099	779
為替換算調整勘定	△ 437	△ 673
少数株主持分	706	694
3 純資産合計	13,126	12,378
負債・純資産合計	35,245	34,227

● 四半期連結損益計算書

（単位：百万円）

科 目	当第2四半期(累計) 自 平成25年4月 1日 至 平成25年9月30日	前第2四半期(累計) 自 平成24年4月 1日 至 平成24年9月30日
売上高	14,858	14,129
売上原価	12,650	11,990
売上総利益	2,208	2,139
販売費及び一般管理費	2,117	2,208
営業利益又は営業損失(△)	90	△ 69
営業外収益	243	213
営業外費用	82	139
経常利益	251	4
特別利益	2	—
特別損失	9	50
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	245	△ 46
少数株主損益調整前四半期純利益又は 少数株主損益調整前四半期純損失(△)	199	△ 93
四半期純利益又は四半期純損失(△)	179	△ 110

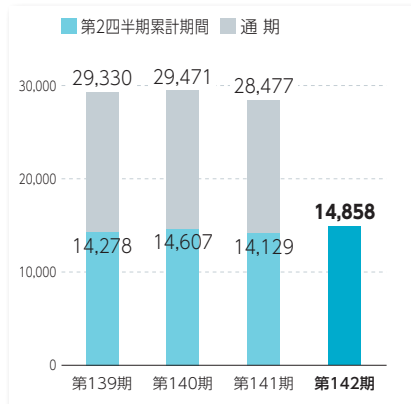
● 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

科 目	当第2四半期(累計) 自 平成25年4月 1日 至 平成25年9月30日	前第2四半期(累計) 自 平成24年4月 1日 至 平成24年9月30日
営業活動による キャッシュ・フロー	22	535
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 1,114	△ 409
財務活動による キャッシュ・フロー	1,321	△ 738
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△ 5	△ 0
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	223	△ 613
現金及び現金同等物の 期首残高	1,977	2,283
現金及び現金同等物の 四半期末残高	2,200	1,670

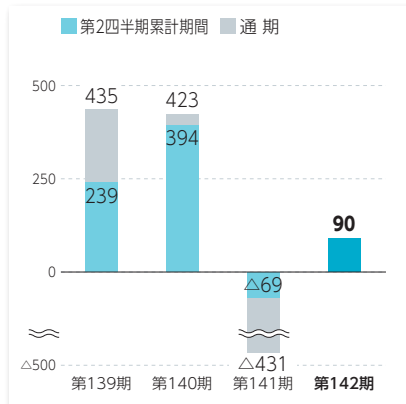
●売上高

(百万円)



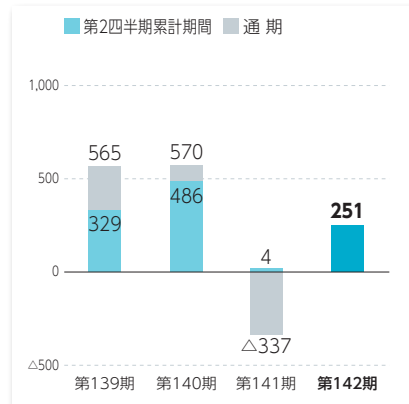
●営業利益

(百万円)



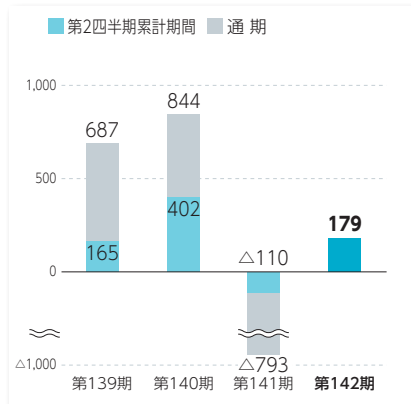
●経常利益

(百万円)



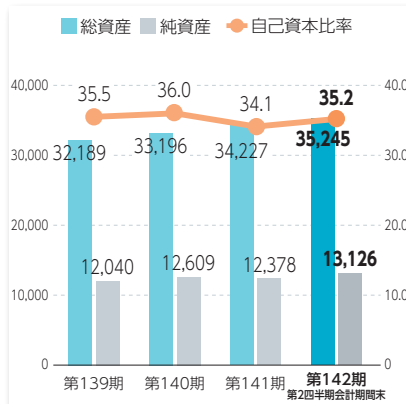
●四半期（当期）純利益

(百万円)



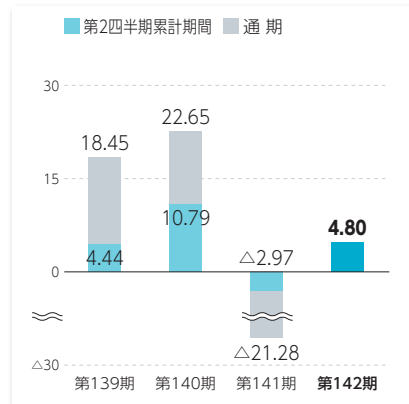
●総資産・純資産・自己資本比率

(百万円・%)



●1株当たり四半期(当期)純利益

(円)



ポイント 1 資産

総資産は、前期末比10億1千8百万円増加の352億4千5百万円となりました。流動資産は、受取手形及び売掛金の減少などにより前期末比3千2百万円減少しました。固定資産は、有形固定資産や投資有価証券の増加により前期末比10億5千1百万円の増加となりました。

ポイント 2 負債

負債は、前期末比2億7千万円増加の221億1千9百万円となりました。流動負債は、支払手形及び買掛金の減少や社債の償還を行ったことなどにより前期末比14億4千2百万円減少しましたが、固定負債は、長期借入金の増加などにより前期末比17億1千3百万円の増加となりました。

ポイント 3 純資産

純資産は、四半期純利益を計上したこと、その他有価証券評価差額金が増加したことなどにより、前期末比7億4千7百万円増加の131億2千6百万円となりました。



会社概要

●会社概要 (平成25年9月30日現在)

社名	新日本理化株式会社
設立	大正8年11月10日
資本金	5,660,863,449円
従業員数	366名（単体） 469名（連結）
事業所	
大阪本社	大阪市中央区備後町二丁目1番8号 備後町野村ビル
東京支社	東京都中央区新川一丁目3番3号 グリーンオーク茅場町
研究所／京都工場	京都市伏見区葭島矢倉町13番地
徳島工場	徳島県徳島市川内町榎瀬1番地
川崎工場	川崎市川崎区浮島町7番2号
堺工場	堺市西区築港新町3丁5番地1

●重要な子会社および関連会社 (平成25年9月30日現在)

連結子会社	日新理化株式会社
	アルバス株式会社
	日東化成工業株式会社
	NJC Korea Co.,Ltd.
持分法適用 関連会社	Emery Oleochemicals Rika (M) Sdn.Bhd. 台湾新日化股份有限公司

●役員 (平成25年9月30日現在)

取締役会長	野村正朗
代表取締役社長	藤本万太郎
代表取締役 常務取締役	原健二
常務取締役	林豊
取締役	寺澤静男
取締役	状家美香
取締役	加藤慎治
取締役	藤牧慎一
取締役	石野淳
取締役	芹田俊雄
常勤監査役	加藤純
監査役	織田貴昭
監査役	村永次郎



●研究所/京都工場



●徳島工場



●川崎工場



●堺工場

●株式の状況 (平成25年9月30日現在)

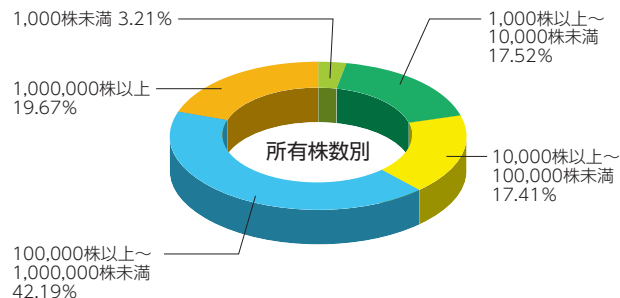
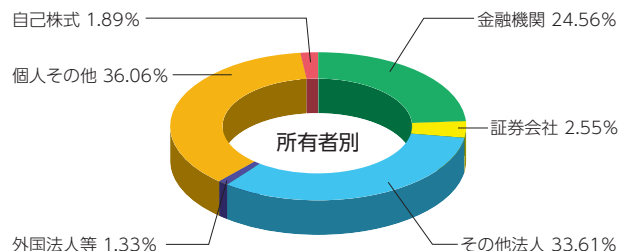
発行可能株式総数 150,000,000株
発行済株式の総数 38,008,906株
(うち自己株式719,236株)

株主数 8,141名

大株主 (上位10名)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社りそな銀行	1,861,533	4.99
株式会社西日本シティ銀行	1,633,300	4.38
日本証券金融株式会社	1,622,000	4.35
フクダ電子株式会社	1,199,000	3.22
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	1,160,600	3.11
三井住友海上火災保険株式会社	941,600	2.53
日油株式会社	922,875	2.47
野村貿易株式会社	850,100	2.28
豊田通商株式会社	790,000	2.12
東洋テック株式会社	738,000	1.98

株式分布状況



ホームページのご案内



URL
<http://www.nj-chem.co.jp/>

当社ホームページにおきましても最新のトピックスをはじめ、様々な情報をご案内しております。

詳しくは ▶▶

IR情報メール配信サービス

メールアドレスをご登録いただいた皆様に、最新の当社IR情報をEメールでお知らせいたします。ご希望の方はトップページからご登録ください。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
基準日	定時株主総会の議決権 3月31日 期末配当 3月31日 中間配当 9月30日 臨時に必要な場合は、その都度公告いたします。
公告方法	電子公告とし、当社ホームページ（ http://www.nj-chem.co.jp/ ）に掲載いたします。 ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
単元株式数	100株
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第1部
証券コード	4406
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
各種お問合わせ [郵便物送付先]	〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話 0120-094-777(通話料無料) [受付時間 9:00～17:00(土、日、祝祭日、年末年始を除く)] ホームページ http://www.tr.mufg.jp/daikou/

●ご注意

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。
- 大阪証券取引所は、平成25年7月16日をもって東京証券取引所と現物市場の統合を行ったため、当社の上場証券取引所は東京証券取引所となっております。

●特別口座に株式をお持ちの株主の皆様へ

特別口座は、平成20年末までに証券会社を通じて「ほふり」(証券保管振替機構)に預託されなかった株式について、株主様の権利を保全するために、当社の証券代行機関である三菱UFJ信託銀行に開設した株主ご本人様名義の口座のことです。特別口座は証券会社の口座と異なり、株式の売買ができませんので、証券会社の口座に移管されることをお勧めいたします。また、単元未満株式につきましても、証券会社の口座に振替えることができます。

なお、お手続き方法につきましては、上記の各種お問合わせ先にお申し出ください。



環境に配慮した「植物油インキ」を使用しています。



見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。